

講座
1

2015
9/28(月)

低炭素まちづくりの戦略と戦術

[講師] 村山 顕人

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授
錦二丁目低炭素まちづくり地区会議 議長

第1回は、低炭素まちづくりに関する知識をらせんを描きながら高いレベルまで創造していく学習会の基礎として、錦二丁目が始まった低炭素地区まちづくりプロジェクトの全体像とその戦略・戦術に関する講義から始まりました。

都市活動による二酸化炭素をはじめとした温室効果ガスの排出は、**地球の温暖化・気候変動**をもたらし、それは集中豪雨や海面上昇といった災害のリスクを高めます。また、建物・自動車等からの排熱やコンクリートの蓄熱は、**都市のヒートアイランド現象**を悪化させます。人々の健康や命への脅威、資産価値の低下、社会的コストの増大につながるこの2つの温暖化の問題の解決に向け、錦二丁目では、**名古屋市の低炭素モデル地区事業の認定を受けた地域主体のまちづくりプロジェクトが展開**されています。それは、地球温暖化の原因である二酸化炭素の排出量を2010年から2030年までの間に25%以上削減するための**緩和策**と2つの温暖化により変化する環境の中でも快適に暮らせるようにするための**適応策**を組み合わせたプロジェクト群です。



▲講義の様子



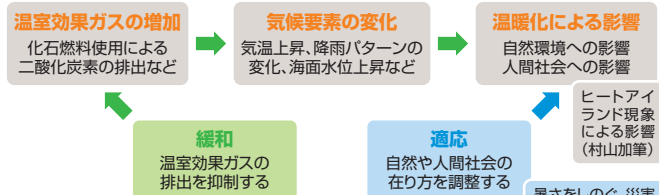
▲村山准教授

錦二丁目まちづくり協議会では、既に、都市の木質化(ストリートウッドデッキ、建物内部の木質化など)、公共空間の再整備(歩道拡幅社会実験、緑化など)、自然エネルギー利活用、建物の改修や建て替えなどのプロジェクトが進められています。今後は、企業が持つ様々な**環境技術・システムやノウハウ**を錦二丁目を導入する**プロジェクトも立ち上げ、さらに低炭素で快適な錦二丁目をつくる**取り組みを進めていきます。

自然環境と人間社会の相互作用

地球の温暖化はそう簡単には食い止めることができない → うまく付き合う
(先進国の生活水準の維持、新興国の成長により増え続ける二酸化炭素排出量)

●地球温暖化に対する適応策と緩和策



緩和策とは、「緩和」と「適応」の2つがある。緩和とは、温室効果ガスの排出を減らして温暖化の進行を食い止めること。適応とは、自然災害や健康分野への気候変動の影響に対して、治水対策や感染症予防などの被害の防止・低減や便益の機会を活用する対策を講じること。

環境省地球環境局研究調査室室長 竹本明生氏 講演資料より
http://special.nikkeibp.co.jp/as/201401/mirai_bp/forest/01.html

「低炭素」というグローバルな課題に「地区まちづくり」というローカルな取り組みを通じて応答していく戦略

- 持続可能な都市を構成する「低炭素で快適な」地区をつくる
- 建物・インフラストラクチャーのプロジェクトと地域・個人のアクションを統合し、地区の持続性を高める
- 地区は持続性を加速させるのに適正な規模
 - 素早くイノベーションを起こすのに十分な小ささ
 - 意味のある影響をもたらす十分な大きさ

地球規模の気候変動による海面上昇や異常気象の原因は二酸化炭素などの温室効果ガスの過度な排出。それを削減するのが「低炭素」の取り組み。



図:Portland Sustainability Institute / EcoDistricts資料より

既に進められているプロジェクト



次のステップは建物やインフラストラクチャー

イメーJ米国オレンゴン州ポートランド



講義の後には、学習会の会場である名古屋センタービルにおける環境配慮の取り組みについて株式会社竹中工務店・河崎泰了氏にご報告頂いた上で、会場全体で錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクト全般、水と緑、長者町ウッドテラス(歩道拡幅社会実験)、PDCA・実績、錦二丁目の取り組みの先進性に関する活発な質疑応答・意見交換が行われました。

質疑応答・意見交換より

Q1 錦二丁目長者町まちづくり構想や低炭素モデル地区の対象エリアを教えてください。

A 東は本町通、西は伏見通、南は錦通、北は桜通で囲まれた16街区・約16haのエリアです。

Q2 だれのための低炭素まちづくりなのでしょう？

A 地球規模の温暖化・気候変動を少しでも緩和するという意味では地球に住む人類のため、集中豪雨やヒートアイランド現象による影響に錦二丁目の社会と空間を適応させていくという意味では錦二丁目の就業者、住民、来訪者等のための低炭素まちづくりです。

Q3 低炭素なまちづくりとは、どのくらいの期間がかかるのですか？

A 錦二丁目のように、建物や空地が少しずつ更新される既成市街地では、低炭素まちづくりに終わりはありません。また、まちの物理的環境のつくり方だけでなく、ライフスタイル・ワークスタイルにも関わることで、低炭素まちづくりの取り組みはずっと続きます。現時点では、錦二丁目長者町まちづくり構想の目標年次である2030年を目指して、活動が展開されています。

Q4 長者町ウッドテラスで使用していた木材は、その後どうなりましたか？

A 第32回全国都市緑化あいちフェアの会場である愛・地球博記念公園の休憩スペース「わいわいウッドデッキ」として二次利用されました。



Q5 低炭素まちづくりの中で、建築物におけるエネルギー消費量削減の役割は大きいと思います。それを地区のまちづくりとしてどのように誘導していこうと考えていますか？

A 建築環境総合性能評価システム(CASBEE)等の仕組みも参考にしながら、錦二丁目内の建物の更新(建て替え、共同化、改修、取り壊し)の計画について、事前に地域の審査会が低炭素まちづくりの視点から評価し、必要に応じて計画の変更について提案・協議できるような仕組みを導入できれば良いと考えています。

Q6 ポートランドのような街になるためには、名古屋市のだんなルールが緩和されたり、どんなルールが存在したらいいか教えてください。

A 公共空間(特に道路)の利活用や再整備については、より柔軟に対応できるよう、ルールが緩和されると良いと思います。また、Q5にも関連しますが、建物の更新の計画を地域の審査会が評価・変更提案できるような地域ルールがあると良いと思います。

講座1の 総括

低炭素まちづくりの戦略と戦術をつなぐ 5つのKeyword

- 1 Action-oriented** ————— 小さな活動を積み重ねる
- 2 Behavior-impelling** ————— 生き生きとした行動が駆り立てられる
- 3 Collaborative innovation** ————— 企業とのコラボレーションによる状況変革
- 4 Dynamic Process** ————— ダイナミックな進め方
- 5 Evaluation of Lifestyle & Workstyle** — ライフスタイルとワークスタイルの評価

延藤安弘氏(NPO法人まちの縁側育くみ隊代表理事/錦二丁目まちの会所世話役)

アンケートに ご回答いただきました



ハード面にて、コストを含めた技術・新商品の紹介をして頂き、それらを検討の上で実行化したい。
(地区内の地権者)

建物の建替にあたって、地域で協議していけるようなシステムができるといいと思う。
(行政職員)

都市の木質化にプラスして、緑視率をあげるような取り組みを創り上げ、緑の効果を実感出来るような街づくりを行っていきたいと思います。(賛助会員)